



擁書樓日記
十

8
5756
10

10



特

門 又 6
號 5756
10

文化十四年

十月

十月

十月



擁書倉日記

十

高田早苗
昭和二十七年
十月

1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

擁書倉日記 文化十四年

十月 辛亥 小

朔日かみのひりーるる土大いやうと伊勢
 曆子又もりくると晴しあハ所管所子あり
 二日雨ハ所子あり
 三日晴ハ所子あり
 四日晴七つ時ころころあつたあつたあつたあつたあ
 うえこれあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ありありありありありありありありありありありあり
 あああああああああああああああああああああああ

師中々々々々

五日晴七時ありこの日のれよあま
了河津河衣屋の電杉尾の助るま
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
何庭者三郎十竹茂仲竹内並流北
伴時鄰深子日ありてちほふ別す
きくくくくくくくくくくくくくく
六日晴くくくくくくくくくくく
七日晴

八日晴

九日雨

十日晴

十一日雨風

十二日曇

十三日雨

十四日雨或晴くくくくくくくくく

栗也字名海くくくくくくくくく

十五日雨或晴くくくくくくくくく

井美河橋中老えん十舟茂仲山崎

去の事何を恒之亭に於て候お名所力
並藤岡げん子片岡定之丞衣室所庵
ちりてくしりあちか隠居を講じ
十六日暗風大田軍一乃ち由多森
中七うははてた。ち御あ子た由
法光りる中由多森お申て也子。あ
とがよ片岡定之丞又あて也子あ
十七日暗表はる火庵又あて也子あ
たもよる中由多森少川とてれうり
ふすのらん西木子新弘賢主大田

南敵うし節豆ともあてし分村より
八所一町とてくろみん。浩木豊國。

十八日雨
十九日曇
廿日小雨
廿一日暗 狐毛屋いせしとてりことりあ
廿二日雨
廿三日晴ハ町より得ん夢次郎とてり
島崎は太高又あて也子

廿四日晴し河津石川のゆきをたふす
あつとゆうゆき山崎まふゆき
廿五日晴石井其の橋をたふす
まふゆき山崎まふゆき
廿六日晴お田たふす
あつとゆうゆき山崎まふゆき

廿七日曇古澤安子大田南敵うらふ
廿八日晴今日草次郎を具一七八町の
廿九日雨松井をたふす
あつとゆうゆき山崎まふゆき

十一月壬子大

○朔日のみえぬいふ土ふゆまの井はわ
と伊勢方曆よりむらりりふふの計しむ

○二日暗

○三日暗小石川 忍ふし河火しりあり

○四日暗い町に館ありあまのこり幸

次亭い風よりいれむがむんりり
ま在守を名をく

○五日暗四つ時大地震雨度あり了

入る小石川流つたわらう根石の芽やけ
ぬく時ありありかやを

時よあ火中いそよあいけもえん四

つす時中いけええええええええええ

二本の幹 山崎五ふん井並時

舟のまきま小松よりおぬをほ七河

勢を立おる小舟を仲すよ

古ぼあまあまふふ井の鳥ま

ふかろやあ山崎のけいりやを

こつらん山崎まゆりあまのがたり

げにのる中をほいれえり河を

貴食子流しなやめしちんいりいれ

うぬしうれびんまここのひんてらある
ちかお四つ時よりういよあかひこいひ
て車の上をちうんたうーし

○六日雨しういあつめあつたあつこ
に弘賢主の女ゆき家文かこもあつた
臨川河まきまきいひうとあつたあつた
いひまあつた山崎おれ亭琴其聲
ういよあつたあつたあつたあつた
ういよあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

丹波与比 信田のちを

君方の様ハ よいこの様介

いご子の三太郎 其中の又義

おんぬの三太郎 あまのよめいひのいさ

まありて思ふまのたういれういひあつた

ちかおのちあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

いひあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

千世のちとらとらに歌おぬせよ
後ちとら相高俊若屋つさるる家路つら
川のみみきえろふかちよそれと
とせ熱風のこよとよめれとその子
るあふれ

○七日晴村田のたせよぐりけをやる小せの
二節右はつま大長治書つま山田大若つま
の藤子出づ潜運のき用ようりて今
女々丸山出火

○八日晴河を渡りかきとらまの

井取鳥もつらうらふらふの母力
うらふれりし時路はち予ふか

○九日晴

○十日雨

○十一日晴

○十二日晴

○十三日少雨或晴

○十四日晴河を渡りかきとらまの

千位すのあもちうらふらふの
一節右はつま大長治書つま山田大若つま

ちのちほはまきしごとく少くもつゝ
春の中は清くまらぬらん
まきしごとくあらん

○十日晴の中お偉
余のちよつともふ
まきしごとくあらん

おつたふはつたふ
まきしごとくあらん
善玉玉照法門小舟
善玉玉照法門小舟
善玉玉照法門小舟

鳥海大舟舟内まきしごとく
舟一舟舟舟賢まきしごとく
りつたふはつたふ

○十一日晴
まきしごとくあらん
まきしごとくあらん

○十七日晴
まきしごとくあらん
まきしごとくあらん

ちあつたよのほと活木豊園経澤守
子いわいふふ石田島やうきしん

○十六日晴高本竹坡かきでく鏡

木原系をわてハ所をわておとく
その月とわてハ所をわておとく
しよありんりよ知賢主山口柳塙

○十九日雪ハ所をわてく

○廿日晴

○廿一日晴

○廿二日晴午おきがちんもせに
杯のちんあつてん雪のどきりき
あつてんをちん西南のやかき
ちんてんあつてんをちん

○廿三日曇わつてんあつてん

ちんあつてんあつてんあつてん
いのちんあつてんあつてん島
は太郎又あつてんあつてん
あつてんあつてんあつてん

○廿四日晴りりありの上るるありて
境河動産りり病

○廿五日晴病ありさうりりりりりり

片倉元周本へは病を加之石井

市北地つるは病ありりりりりりりりりり

海太ちと和を和のりりりりりりりりりりりり

○廿六日晴二病昨日のりりりりりりりりりりりり

にちりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

○廿七日晴 杉井八郎をりりりりりりりりりりりり

○廿八日晴 春日中へは病ありりりりりりりりりりりり

動力の時去りて王子とありりりりりりりりりりりり

古木田川本日地の中へありりりりりりりりりりりり

の石文にありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

今くありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

石木田川ありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

けいありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

本年ありりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

く 弘賢主 石中 由 至 子 孫 是 孫 孫
 う 仲 也 也 正 木 花 火 傳 文 何 也 何
 此 日 是 武 小 雪 武 晴 或 風 分 時 之 多 也
 町 出 火 也 一 石 地 其 火 井 切 之 人
 之 何 也 何 之 正 本 之 幹 井 切 也 何 也 何
 花 仲 木 切 也 何 人 弘 賢 主 何 也 何
 立 者 也 何 也 何 何 井 切 之 何 也 何
 六 日 晴 弘 賢 主 山 崎 五 斗 山 何 也 何
 大 田 也 何 何 何 何 何 何 何 何 何 何
 何 何 何 何 何 何 何 何 何 何 何 何

弘賢主 石中 由 至 子 孫 是 孫 孫

仲也也 正木花火 傳文何也何

此日 是武小 雪武晴 或風分 時之多也

町出火也 一石地 其火井 切之何 人

之何也何 之正本 之幹井 切也何 也何

花仲木切 也何人 弘賢主 何也何

立者何也 何何何 何何何 何何何 何何何

六日晴 弘賢主 山崎五 斗山何 也何

大田也何 何何何 何何何 何何何 何何何

何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何

何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何

何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何

何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何

弘賢主 石中 由 至 子 孫 是 孫 孫
 仲也也 正木花火 傳文何也何
 此日 是武小 雪武晴 或風分 時之多也
 町出火也 一石地 其火井 切之何 人
 之何也何 之正本 之幹井 切也何 也何
 花仲木切 也何人 弘賢主 何也何
 立者何也 何何何 何何何 何何何 何何何
 六日晴 弘賢主 山崎五 斗山何 也何
 大田也何 何何何 何何何 何何何 何何何
 何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何
 何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何
 何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何
 何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何
 何也何何 何何何 何何何 何何何 何何何

詠平 ぼく 又 あり こと あり

名 不 梅

仁徳天皇 宇治雅節子 故事 宇治 花園 見于 夫木抄 意田 歌

あけがら 宇治の せきを 立てられ け
新 けの まさき けの 梅 ぞ

雪

あけは 雪 へ ちか ちか けり 雪の
山の ちか けり けり けり けり

若

あけり ば けり けり けり けり けり
あけり けり けり けり けり けり

花 あり 兄弟

仁徳天皇 雅節子 之 故事

あけり けり けり けり けり けり
あけり けり けり けり けり けり

十九 卯 年 高木 重 見 于 夫木抄 意田 之 歌

あけり けり けり けり けり けり
あけり けり けり けり けり けり

新 梅

あけり けり けり けり けり けり
あけり けり けり けり けり けり

鶯 声 鳥 宋書 韓馮 之 故事

此杖かばはるおのづかするも
さるるなりまぐくしものなり侍

雪収身

晋書王子猷之故事

雪のちりまのりしてなるとあり
あそかたもあつらうりあり

推書倉目録序

知非齋高田子曰予固寒鄉之一百
姓也幼時蒙家嚴之慈訓而解讀
書及長從古昔陽村織錦二先生
問漢倭之道正焉然書之不能博涉於

不東叶

百家家嚴賜以黃金五百兩乃出而
所表於高田氏其以有賜也於乎
家貯不其之遂至於聚藏萬卷
者亦家嚴之厚心也嗟我子孫能
守能讀而勿狃之故說古人有言積
書金以遺子孫不能以讀守也嗚
呼予情願之遂亦難矣哉文化丁丑
臘月際与清文儒序

○七日唱和賢主よりやうそとあり片
号寛元今部方屋左右あり男羽屋保

美二子存へきしきしし今も
原の記をやりつ

○十日晴る中ゆきあがりけさ
大雨を降せきぞ

○十一日晴る中ゆきはあつは
せしお舟は仲し船もさか
を山に突まの海はほとやの
壱を来すぞ

○十二日晴る中ゆきはあつは
舟の記をやりつ

あつは梅の枝のつら

さし梅のふれのあつは
さし梅のふれのあつは
さし梅のふれのあつは

○十三日晴

○十四日晴る中ゆきはあがり
ゆきはあがりゆきはあがり
ゆきはあがりゆきはあがり

十五日所おぼわさつらつら

夫ん何うすやあ 暗い山崎新にふりこむ
伊多きまうしし 杉井なるのあしう

西本子孫ふあさむ
○十六日暗い山崎新にふりこむのあしう
ふりこむうしし 杉井なるのあしう

○十七日晴有故時之節横田はるる
ふりこむうしし 杉井なるのあしう
地震動しん 煙石の降るあしう
河原の預えし 上総国即鉄鉦臺

のえん 煙石の降るあしう
日いそむ付し 大石あさし三四
十里のようきまんとむいせしとらり日
のくわしきる産るあしう
いそむうしし 杉井なるのあしう
樹いりあしう

○のえん 煙石の降るあしう
中しうるむあしう
あしう
あしう

廿日晴山名中由多尻おま〜ざ〜上
條昌太郎より使字やう
廿一日晴今日錦を搦才四つ時よりハ
町名平くお〜し〜

廿二日晴

廿三日晴ハ丁より 保嶋崎待直又

おろやりの上条昌太郎より〜

廿四日晴

廿五日晴和賢主古沢知則より〜
保嶋崎より 相一 大田 高 敏 文 助 也 也

廿六日晴和賢主より 保嶋崎より 山口
相一 助 了 河 清 清 乃 中 由 多 尻 也 也

ゆ〜り〜

廿七日晴立綱 保嶋崎より 和賢

主より 保嶋崎より 相一 助 也 也

廿八日晴 保嶋崎より 相一 助 也 也

三丁 保嶋崎より 保嶋崎より 相一 助 也 也

保嶋崎より 保嶋崎より 相一 助 也 也

保嶋崎より 保嶋崎より 相一 助 也 也

保嶋崎より 保嶋崎より 相一 助 也 也

Handwritten text, possibly a list or notes, starting with "The next morning" and "The next morning" written vertically.

Handwritten text, possibly a list or notes, including "The next morning" and "The next morning" written vertically.

Small handwritten notes or signatures at the bottom of the page.

